

ラオスで人材育てる

ほくりく



最前線

大型ショッピングセンターから一般住宅まで建築を手掛ける西野工務店(若狭町)。日本の木材加工技術を伝承しようと、二〇二〇年から東南アジアの途上国ラオスで人材育成に取り組んでいる。現地の職業訓練校との協力や日本での実習など、人材育成システムをつくり上げることが①「パートナーシップで目標を達成しよう」に当てはまると考えている。

国内で建築業界は受注が飽和状態で職人の高齢化にも直面しており、海外に目を向けた。コンサルタントからラオスを紹介され、一二年に第二の都市バクセーを視察。現地の人たちが自

最重要目標

17

パートナーシップで目標を達成しよう



大型SCから住宅まで建築

西野工務店 若狭町



建具職人串から資材の加工を学ぶ研修生たち＝美浜町佐柿の美和木工で(西野工務店提供)

ら材料を調達し、親戚たちと家を建てている姿を見て、久池定光代表取締役社長(五七)は「ラオスの建築業界には未来がある」と感じたといい。

同年十二月には国際協力機構(JICA)の海外展

開支援事業に選ばれ、現地の職業訓練校に木材加工機械を設置。建築を指導するリーダーも不足していたため、リーダー育成と技術者育成を同時に進めた。会社からも工場長や職人が約二週間ずつ訪れ、指導に当た

った。職業訓練校では若者十五人に指導したが、建築の経験はあっても、母国語の読み書きすらできない人もいた。そこで、出来上がった建築模型を展開して図面を書くなどの勉強法を導入。完成品を先に見ることで、完成度が高くすくに使える資材を作り出すことになった。

一七一九年には、訓練校から研修生計九人を呼んで日本で実習。現在もう二人が技能実習生として職人たちと同じ寮で暮らしながら学んでいる。仏教国のラオス人は目上の人に尊敬の気持ち強く、職人たちも「孫みたい」とかわいがり、信頼関係を築いている。

今年六月には現地法人「Laonishino(ラオニシノ)」を設立し、訓練校の卒業生の雇用を始める。いずれは職人となって独立しさらに次の人材育成につながることを期待している。

久池社長は「海外での人材育成のモデルケースになれば。日本で人手不足の農業や介護などの業界にも広がってほしい」と願っている。(飯下千晶)

会社メモ

1968(昭和43)年7月創立。延べ3000平方メートルの木材加工工場を持ち、古民家再生にも取り組む。木材だけでなく鉄筋で大型倉庫なども建築する。従業員は18人。昨年度の売上高は約8億円。本社は若狭町三宅。

持続可能な開発目標(SDGs) 2015年9月の国連サミットで採択され、30年までの達成を目指す国際目標。「誰一人取り残さない」という理念のもと、貧困や飢餓の撲滅、環境保全、気候変動への対応、男女平等の実現など17の分野別目標と169の具体的達成基準を掲げる。SDGsはSustainable Development Goalsの略。

学ぶ

月

働く育む

ワーク

料理

食健康

撮る

文化